

5月1日新元号 「令和」の次代へ

西宮 正泰 陸士53

来る5月1日、新しい天皇の即位とともに改められる元号が「令和」に決まった。上品で、清々^{すがすが}しい印象の元号だと思ふ。

何より画期的なのは、日本の古典である『万葉集』を初めて典拠としたことであると言われる。

1200年あまり前に編纂された『万葉集』は、日本文学史上最高の文化遺産であり、天皇から庶民まで、様々な階層の人の歌を集めた歌集である。古代の日本人の心が詰まった『万葉集』を典拠としたのは素晴らしい選択と言える。

今回の改元の特徴は、天皇の崩御では無く、期日の決まった退位による皇位継承に従うものである。「大化」以来248番目の元号である。

講談社編、『万葉集』中西進編 を読む

万葉集巻五 梅花の歌三十二首併せて序

天平二年正月十三日に、帥の老の宅に集まりて、宴会を申（ひら）く。

時に初春の令月にして気淑（よく）風和（やわら）ぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き蘭は珮後の香を薫（か）おらす。

「令」は、素晴らしいという非常に清々しい和らぐ時にしようという気持ちを読み取れる。「和」は、和らぎという大和言葉に当てた漢字だ。

新元号からは、（清々しく和らぐ）時代にしようという気持ちを読み取れる。

編集委・本稿は、借行会員の中で「万葉集」研究の第一人者である西宮正泰氏（陸士53）が、編集の依頼に応じて投稿されたものである。氏は、ご著書に『万葉集探訪』があり（販売中）、現在は施設に入って療養されている。

